



きぬた

NPO 法人埼玉県キャンプ協会, 〒336-0974 埼玉県さいたま市緑区大崎 3551 浦和大学 中島研究室
http://saitama-camping.jp/ E-mail saitama@camping.or.jp TEL 080-8729-0349(事務局専用)

きぬた 142 号

- 1 OPINION
特集 With コロナ時代のキャンプ
(2020 年夏)
新型コロナウイルス禍の
キャンプについて考える
- 2 特集 With コロナ時代のキャンプ
(2020 年夏)
新しい生活様式によるキャン
プへの取り組み
キャンプ休業の夏



今回の OPINION は、With コロナの時代のキャンプを考えるための資料のひとつとして、NPO 法人埼玉県キャンプ協会の会員たちがこの夏をどう過ごしたのか、寄稿をもとに事例を紹介します。

特集 With コロナ時代のキャンプ (2020 年夏)

新型コロナウイルス禍のキャンプについて考える

NPO 法人埼玉県キャンプ協会会長 金子和正

100 年ぶりのパンデミックを起こし世界中を震撼させている新型コロナウイルスは、野外活動の場にも否応なく浸食してきました。

野外での活動に3密は当てはまらないと、キャンプに出かける人も多くいましたが、米国ジョージア州のキャンプで発生した新型コロナウイルスの集団感染は、我々のキャンプへの一歩を踏みとどまらせることになりました。私たちはキャンプの実施に向けて今何をどうすべきかを考えなくてはなりません。しかし、キャンプで感染を引き起こしたら…と考えると、なかなか実践することはできなかったのではないのでしょうか。

これから報告することは、万全な対策をして3泊4日の子どものキャンプを実施し感染者を出さずにすんだことを顧みながら、野外教育に携わる一個人として新型コロナウイルス禍での野外教育について考えてきたことです。

3泊4日で実施した子どもキャンプは、定期的に活動している「森のようちえん」の夏のキャンプです。今回は参加者数を半分にまでして大型バス(28人乗車)で現地へ向かうことから対策を始めました。キャンパーとその家族には2週間前から朝夕の検温と体調チェックを続けてもらうと同時に、家族や関係者の体調も厳しくチェックしてもらうことを参加条件にしました。また、キャンプ終了後も10日間の検温と体調チェックを続けて頂きました。実施中は、バスと運転手を参加者と別の

宿泊施設に留め置きして、キャンパーやスタッフに何か異変(新型コロナウイルスやインフルエンザに似た症状)が現れた場合は即座に帰るといった体制で臨みました。

万全な対策をしたおかげで、3泊4日の子どもキャンプでは感染者を出さずに済みました。

子どもが夢中になって遊んでいる時に、3密を避けようと叫ぶほど辛いことはありません。新しい子どもの生活スタイルは、遊びに夢中になっても友達と近づいてはいけなくなるのだろうか？食事の時に楽しいことをいっぱい話すことをやめて静かにしなくてはならないのだろうか？遊び道具に触れたり友達と手をつないだり、その度にアルコール消毒をしなくてはならない、そんな毎日になるのだろうか？

私たちキャンプの指導者はこの危機に、何をすれば良いのでしょうか。確実に言えることは、関係者で十分な論議をし、結論を出すことです。

新型コロナウイルス禍でどのような方法でキャンプを実施したのかを報告しあい、知識や体験値を共有し合っていくことが重要であり必要であると考えます。キャンプが不要不急の一つの経験にならないためにも皆さんで力を合わせて情報を共有し、コロナ禍でのキャンプの可能性を探ることこそが大切なのではないのでしょうか。

(寄稿の一部を抜粋して掲載しました。)



「特集 With コロナ時代のキャンプ(2020 年夏)」をお届けするにあたって

新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、感染されている方々には、心からお見舞い申し上げます。そして、医療従事者・行政関係者をはじめとして、社会を支える多くの方々にご心より感謝と敬意を表します。



特集 With コロナ時代のキャンプ (2020 年夏)

「新しい生活様式によるキャンプへの取り組み」

NPO 法人埼玉県キャンプ協会 大浦秀樹

私は NPO 法人埼玉県キャンプ協会の会員であると同時に、地域でボーイスカウト指導者として活動しています。また、ボーイスカウト日本連盟トレーナーとして、埼玉県連盟トレーニングチームの一員として、指導者研修にも携わっておりますので、今夏のボーイスカウトのキャンプ状況についてお話いたします。

例年であれば、年間の活動の締めくくりとしてキャンプが行われ、子どもたちは大きな進歩、成長を遂げる機会となるはずでしたが、コロナ禍により8月末まで全ての泊を伴う活動は中止となりました。

日本連盟から2月21日に「新型コロナウイルス感染への対応について(第1報)」が通知され、それ以降、感染状況や政府等からの要請に対応するため、感染対応の通知、注意喚起や活動ガイドライン等が出されました。7月7日付の第10報では、8月末までの宿泊を伴う活動は原則中止とし、地域状況を踏まえたうえで、各県連盟の方針見直しによるキャンプの実施が示されましたが、埼玉県連盟方針では、日本連盟の方針を踏襲し、8月末まではキャンプ活動が中止となりました。同時に、指導者研修についても「8月末までは中止」となり、トレーナーには、子ども達の活動支援を第一優先とするとともに、自己研鑽が求められました。また、今夏は日本連盟主催大会の一つの障がいのある

子どもたちの4泊5日の国際キャンプ大会「第13回日本アグーナリー」が福島県猪苗代町で開催予定でしたが、残念ながら、この大会も4月上旬に4年後に延期開催することが決定されました。

このように、日本国内での青少年の健全な成長のための諸活動が失われている現状が危惧され、日本キャンプ協会やボーイスカウト日本連盟など青少年団体の共同声明「新型コロナウイルス影響下における青少年教育に関わる5団体による共同声明」が6月4日に発表され、「新しい生活様式での青少年活動の再開」「病気以外の感染も抑止」「地域社会と連携し、人間性の回復」を掲げました。

ボーイスカウトも、活動を止めるわけにはいきませんので、「Scouting Never Stops」のもと、キャンプを日帰り活動に変更したり、オンラインコンテンツを活用したりして、集会や活動の仕方の工夫が求められました。そして現在は、新しい生活様式によるキャンプの運営や展開のガイドラインが示され、子ども達に自然の中で過ごす体験や学びの機会を提供するため、キャンプの再開に取り組んでいるところです。

※文中に記載の「対応通知」や「活動ガイドライン」等の資料は、ボーイスカウト日本連盟ホームページでどなたでも見ることができます。(www.scout.or.jp)



「キャンプ休業の夏」

NPO 法人埼玉県キャンプ協会 瀧深徹

今夏のキャンプ実施状況

- 子どもキャンプ(2企画)＝開催取りやめ
- 親子向けキャンプ(2企画)＝開催取りやめ
- 高齢者向けハイキング(3、5、7、9月)＝開催取りやめ

毎夏恒例のこどもキャンプ(2泊3日、4泊5日)、親子キャンプ(1泊2日x2回)は、すべて開催を取りやめました。また、高齢者向けのハイキング企画は、3月以降の全4回を開催取りやめました。

高齢者については、感染リスクが高く重症化率も高いとされていたことから、参加予定の方々と連絡を取り開催中

止を決めました。感染が落ち着いたかに思われた6月には、再開を熱望する連絡をいただいたこともありましたが、7月以降の感染再拡大により9月まで開催を見合わせている状況です。

子どもキャンプと親子向けキャンプについては、消毒薬の準備や活動の見直し等の感染予防対策を進めながら事態を見守りましたが、結局、開催取りやめとしました。

対策として消毒の励行や活動内容・方法の見直しなどを行いました。一方で宿泊室やテントの定員減、移動用バスの乗車定員減などによる備品や移動にかかわる経費の増大が参加者負担の増大となり、今後のキャンプ実施の障害となるのではないかと感じています。



NPO 法人埼玉県キャンプ協会

<http://saitama-camping.jp/>

E-mail saitama@camping.or.jp

〒336-0974

埼玉県さいたま市緑区大崎 3551

浦和大学 中島研究室

TEL 080-8729-0349

